

静岡県養護教諭研究会のあゆみ

1 発足と経過

本会は昭和32年、静岡県学校保健会職域部会「静岡県小中学校養護教員部会」として発足した。その後、平成6年に「組織検討委員会」を発会し、時代のニーズに応え、望ましい養護教諭の職務を研究する組織の確立と、会員一人一人の声を反映させるための組織の在り方についての検討を始めた。そして、県下養護教諭の意思統一及び関連機関の理解と協力を得て、平成9年に学校保健会職域部会から独立した研究会組織「静岡県養護教諭研究会」に生まれ変わり、新たな門出となった。

本研究会は、県教育委員会・県校長会・県教育研究会・県学校保健会からの指導と助言を仰ぎながら、時代の変化に対応し「学校保健の向上と養護教諭の資質の向上をめざす研究会」である。

「静岡県養護教諭研究会」は日々の活動を積み重ね、養護教諭の研究会組織として、また会員とともに歩む会として発展し、現在に至っている。

2 10年間の歩み(平成23年～令和3年)

「静岡県養護教諭研究会」は、平成23年養護教諭制度70周年も礎にし、職務の不易と流行を見極めながら、会長の任期ごとにテーマを設定し活動を展開している。

本研究会は、県下の養護教諭の資質向上を目指し、県内養護教諭を対象とした夏季研修会、冬季研修会を主催し、県教育委員会・政令指定都市教育委員会の後援を得て行っている。

コロナ禍により、令和2年度夏季研修会、冬季研修会は中止を余儀なくされたが、令和3年度夏季研修会は会員約780名が参加したオンライン研修、冬季研修会はオンデマンド配信による視聴と、柔軟に学び続けている。

また専門委員会として、会誌「たちばな」編集委員会、実践事例集編集委員会、調査研究委員会、ホームページ編集委員会が活動している。実践事例集は、2年に1度発刊しており令和3年度で第17巻となった。

平成26年からは「養護教諭指導リーダー育成事業」が開始され、現職養護教諭が「養護教諭指導リーダー」として、経験の浅い養護教諭に保健室公開、指導助言を行っている。これは、養護教諭が学校保健の中核となるための、資質能力の向上を図ることを目的としている。

また、平成28年4月には静岡大学教育学部に念願の「養護教育専攻」が新たに設立された。設立に当たっては、本研究会も長年にわたり粘り強く要望活動を実施してきた。これにより、静岡県での養護教諭養成と現職養護教諭の資質向上が可能となった。さらに、静岡大学において平成30年からは専修免許取得も可能となった。

人事面では平成30年度に養護教諭が初の校長に登用された。また、令和元年度から県下教育事務所に養護教諭が配属された。

3 現状と課題

会員の年齢構成は40代以上が約6割を占めているが、今後の任用形態の変化でベテランがさらに増加する一方、児童・生徒数減少に伴う学校数減少で新規採用の減少も予想される。このことから、中堅養護教諭と若手養護教諭の資質向上に向けて一層取り組んでいきたい。

(文責 鈴木 理香)